

生誕120年 

向井潤吉の

—デザインの仕事を加えて

歩みと作品



2021年4/1 ^{木曜日}thu. — 9/26 ^{日曜日}sun.

開館時間 10:00～18:00 (最終入館は17:30まで)

休館日 毎週月曜日(ただし、祝・休日と重なった場合は開館、翌平日休館)、5月3日(月・祝)、8月9日(月・振替休日)、9月20日(月・祝)は開館、5月6日(木)、8月10日(火)、9月21日(火)は休館

観覧料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上/中小生100円(80円)
障害者の方は100円(80円)、ただし小・中・高・大学生の障害者は無料。介助者(当該障害者1名につき1名)は無料。証明書をご提示のうえ、お申し出ください。()内は20名以上の団体料金 *小・中学生は土、日、祝・休日、夏休み期間は無料

世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館

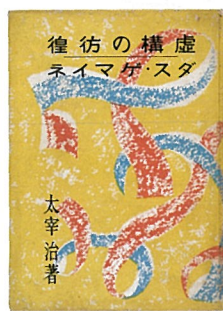
〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1
TEL.03-5450-9581
<http://www.mukaijunkichi-annex.jp/>

2021年に生誕120年を迎える向井潤吉(1901-1995)。今年度の向井潤吉アトリエ館では、明治から平成の時代を生きた向井の人生の歩みと、80年におよぶ画業を、初期から晩年の作品を通して辿ります。第1期(4月1日～9月26日)と第2期(10月16日～2022年3月13日)では作品をすべて入れ替え、民家シリーズの代表的な作品の数々をご覧くださいとともに、若き日にパリのルーヴル美術館で手がけた模写作品や戦時中の従軍スケッチなど、向井潤吉の歩みを物語る豊富な作品と関連資料で構成いたします。

また、第1期では、絵画作品とあわせて、向井が手がけたデザインに着目し、書籍の装幀や表紙画、着物の帯など「向井潤吉のデザインの仕事」を特集。第2期では、館内で今も使われている、「向井が愛用した家具」についてご紹介する予定です。どうぞお楽しみに。



林芙美子著「彼女の履履」改訂版、1931年 装幀:向井潤吉



太宰治著「虚構の彷徨 ダス・ゲマイネ」新潮社、1937年 装幀:向井潤吉



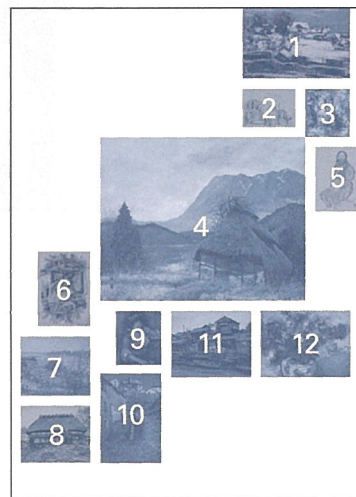
向井が油彩に箔押しを施した帯 1932年頃

生誕120年

向井潤吉の —デザインの仕事を加えて 歩みと作品

- 《湯島台雪景》[東京都文京区湯島]1933年
当時住んでいた小石川付近の風景。この年の初夏、向井は世田谷区弦巻に転居した。
- 《大同の石仏》1966年
向井は戦前から中国の風土に関心を寄せ、戦後は三度訪中、スケッチをもとに大作を描いた。
- 《二人の女》1966年
ミニアチュール展を開くこともあった向井。わずか5センチの画面に細密画を描いた。
- 《雨後千曲川》
[長野県下内郡豊田村豊津宿]1977年
長野での取材旅行の途中、千曲川のほとりに佇む民家との偶然の出会いから生まれた大作。
- 《田麦俣の女》
[山形県東田川郡朝日村田麦俣]1960年代
向井が気に入り何度も訪れた土地の一つ。現地の人々と交流し、スケッチすることもあった。
- 《天長節蘭貢への途上(軍用機内無線上)》
1944年4月29日
戦時中、作家の火野葦平、作曲家の古関裕而とインパール作戦に従軍した際のスケッチ。
- 《海に見える梅林》
[和歌山県日高郡南部町]1968年
戦後40年にわたり全国の民家を描き続けた向井。訪れた土地の自然環境にも目を向けた。
- 《マタギの家 根子部落にて》
[秋田県北秋田郡阿仁根子]1963年
伝統的な狩猟文化として知られる、マタギの猟師たちの住む村を訪ねて描いた作品。
- 《ばらの花をもつ女(ルノワールの模写)》
1927年
若き日のパリ留学で、向井はルーヴル美術館に日参し、2年余りで21点の模写を手がけた。
- 《トレド新春》1960年
1959年、向井は欧州再訪を果たす。パリに8か月ほど滞在し、数々の異国の風景を描いた。
- 《生活の河》[千葉県浦安市]1954年頃
1940～50年代にかけて描かれた向井の作品には、生活や労働を主題としたものが多い。
- 《壺に花》制作年不詳
初期とみられる作品。大胆な色彩と筆遣いにフォービズム(野獣派)の影響が感じとれる。

*[]内の地名表記は、制作時の記録等に基づきます。



世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1
TEL.03-5450-9581 <http://www.mukaijunkichi-annex.jp/>

[交通案内]
東急田園都市線「駒沢大学」駅西口 徒歩10分 / 東急世田谷線「松陰神社前」駅 徒歩17分 / 東急バス(渋05)渋谷駅～弦巻営業所「駒沢中学校」下車徒歩3分



© 宮本和雅

世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17
TEL.03-3416-1202
<http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>



© 宮本和雅

清川泰次 線と立体表現
2021年4月1日(木)～9月26日(日)

世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13
TEL.03-5483-3836
<http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>



© 宮本和雅

宮本三郎、画家として I
はじまりから 戦争を経て 1920s～1950s
2021年4月1日(木)～9月26日(日)



世田谷美術館

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2
TEL.03-3415-6011(代表)

[観覧会のご案内]
TEL.050-5541-8600(ハローダイヤル)
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

*詳細はホームページなどでご確認ください。

同時開催展

企画展

アイノとアルヴァ 二人のアールト
フィンランド―建築・デザインの神話
塔本シスコ展 シスコ・パラダイス

3月20日(土・祝)～6月20日(日)

9月4日(土)～11月7日(日)

ミュージアムコレクション

驚異の三人!! 高松次郎・若林奮・李禹煥―版という場所
グローバル化時代の現代美術
―「セタビ」のコレクションで楽しむ世界旅行
それぞれのふたり 大沢昌助と建島寛造

4月17日(土)～6月13日(日)

7月3日(土)～8月22日(日)

9月11日(土)～11月21日(日)

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止及び抑制のため、ご入館に際し、マスクの着用、検温、連絡カードの記入のご協力をお願いしております。混雑時は入場制限をさせていただきます場合がございます。
※観覧会の会期等が、急遽変更や中止となる場合もございます。最新情報は、当館ホームページ等でお知らせします。